

## 広島県偕行会

### 令和2年度の集い

広島県偕行会は、昨令和2年10月25日（日）、11時前から14時過ぎにかけて、「錦秋の集い」とも言うべき、楽しい集まりを開きました。

初めに広島護國神社に集まりました。広島護國神社の昨年の秋季例大祭は、新型コロナウイルスのため、規模が大幅に縮小され、例年よりは数少なめに招待された前庭のご遺族・ご参拝者に交って、心からの英霊への拝礼をすませました。その後、広島国際ホテル・2階の「芸州本店」・「安芸の間」に移動して、昼食

を共にしました。

右の写真は、この催しへの参集者、全8名の顔ぶれです。

この日、深澤嘉一会長（陸士61）は、最近の、思いがけずの腰痛めのため、やむなく、出席できませんでした。

お集まりの面々は、写真後列の向かって左から、安永公四郎さん（陸自92）、続いて、事務局長の木松久幸さん（陸自68）、中央が、副会長の綿貫昌芳さん（陸自66）、次が、宮本宗晴さん（陸自67）、最右端が、事務局次長の嶋田正志さん（陸自95）です。

そして、前列は、向かって左から、遠い「芸北エリア」の安芸高田市からの、井上廣司さん（陸自72）、中央が、相談



役の緒方昭三さん（陸士61）、残る右端が、もう一人の副会長の、私、高崎禎夫（広幼48）です。

この井上廣司さんは、平成27年8月号から同30年7月号まで、満3年もの間、私たちの月刊誌『偕行』の編集委員会委員長の重責を全うされた、あの井上廣司さん、その人です。井上さんは、亡くなられた元編集委員長・戸塚新さん（陸士61）の後を引き継ぎ、現編集委員長・柴田幹雄さん（陸自75）に後を託されて、一昨年、故郷の広島にお帰りになされていたのです。この「錦秋の集い」の場で、私は、かねて畏敬していた前編集委員長・井上廣司さんに、初めてお会い出来て、格別に嬉しく思いました。

昼食会は、事務局長・木松久幸さんの卓越した采配の下、各自立ち上がったの、近況報告を含む、しかし、ご自由なご発言から始まって、終始、いろいろの楽しい会話がはずみ、交わされて、時の経つのを忘れました。お互い、「にっくきコロナめ」に打ち勝って、皆、若者の風情に満ちて、まこと、心なごむ語らいの場となりました。これぞ、「コロナ」にめげずに「偕（とも）に行く」、われらの広島県「偕行会」でした。

なお、若干、言い添えますと、会場の広島国際ホテルは、平成27・28年にも、ここで総会が持たれましたが、広島市の中心部にあります。そして、その近くに、

往時、「広島偕行社」の建物があつたのです。この建物は、明治18年夏の、中国地方御巡幸時、ここで御3泊の、明治天皇の「広島行在所」でした。（このことは、建物の写真も入れて、『偕行』28年4月号に詳述済みです）

そして、その9年後、明治27・28年の日清戦争時、元「第五師団司令部」庁舎が、「広島大本営」として、明治天皇の「2度目」の「広島行在所」とされたことは、周知のことです。

『偕行』昨年10月号表紙の、「金沢偕行社」と「第九師団司令部」と違って、こちらは、2つとも、原爆に遭い、今は無いいことが悔やまれます。

（副会長 高崎禎夫 広幼48）



振武臺記念館（朝霞駐屯地）